

ノ質分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ  
 一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分並ニ寺資ヲ區別シ記載スヘシ  
 一 右二帳二部ツ、相綴リ擅家法類共兩人以上并ニ其地ノ戸長  
 検査ノ上各姓名ヲ署シ之レニ調印シ一部ハ戸長役場ニ藏シ  
 一部ハ其寺院ニ藏シ置クヘシ  
 已ニ抵償トスヘカテサル物品ノ制限ヲ説キ了レリ是ヨリ身代限  
 リ處分ノ手續ヲ説カン  
 裁判所ニ於テ身代限處分ヲ命スルハ別ニ言渡ヲナスヲ要セス直  
 ニ區戸長役場ニ照會シ原告立會ノ上負債者ノ財産取調ヘニ着手  
 スヘシ而シテ取調終リタルキハ其財産封管ノ手續ヲナシ負債者  
 ナシテ之ヲ隨意ニ處置セシムルヲ許サス  
 右ノ如ク處分シタルキハ其處分ノ次第ヲ書シテ裁判所ノ門前并  
 ニ身代限人ノ門戸ニ六十日間揭示スルナリ揭示案ハ左ノ如シ

何町村

何 之 誰

右ノ者儀何町村何ノ誰ヨリ何々其事目ヲ掲ク出訴ニ及ヒ吟味  
 ノ上身代限申付ルニ付若シ何ノ誰ヘ係リ金穀其他諸取引ノ訴  
 有之者ハ當何日ヨリ來ル何月何日迄日數六十日內ニ當裁判所  
 へ訴出ツヘシ右日限過去訴出ルニ於テハ此度身代限分散金ノ  
 分配ニハ不差加者也

如此揭示サレタル時ハ此身代限者ニ對シ債主權ヲ有スル者ハ右  
 期限內ニ配當加入ノ訴ヲナスヘシ配當加入ノ訴トハ債主ニ於テ  
 自己ノ債主權ヲ有スル金額ニ相當スル配分金ヲ身代限者財産公  
 賣金ノ中ニテ受取ランコトヲ請求スルノ訴ヲ云フナリ  
 六十日間已ニ滿ナテ財産ヲ公賣シ其金圓ヲ配當スルニ當リ先取  
 特權アル者ハ他債主ニ先ヲ自己ノ債主權ヲ有スル金額ヲ引去

身代限

ルヲ得ヘシ而シテ等シク先取特權ヲ有スルモノトイヘ其間亦甲乙ナキヲ得ス今其順序ヲ記サンニ左ノ如シ

第一 租稅

但シ特別ニ財產ヲ指定シテ附加セサル地方稅徵収ハ土地家屋ヲ除キ其他ノ財產ニ對シテノ先取特權アリ

第二 裁判費用

第三 公証ヲ經タル抵當アル貸金

但シ其抵當品ヲ公賣シタル代金ノミニ對シテ先取權アリ

第四 通常ノ貸金并ニ損害

第一第二第三ハ各特權アルモノナリ第四ハ一般ノ配當法ナレハ此中ニ入ルヘキ者ニハ非サレモ暫ク其順序ニ從ヒテ之ヲ記セシ

ノミ

公賣代金ヲ以テ負債ノ全額ヲ償却スルニ余リアテハ身代限ノ處分ヲ免ルニ至ルハ固ヨリナレモ若シ公賣代金ハ負債ノ金額ヲ償フニ足ラスシテ尙ホ幾分ノ義務ヲ負フハ證文ニ裏書ヲナシ假令ヒ子々孫々ニ至ルマテモ身代持直ホシ次第債主ニ償却ノ義務ヲ盡スヘキヲ命スヘシ其身代限者ニ於テ其所有物ノ内他人ヘ貸付置キタル金穀ノ證文之レアルキハ左ノ規則ニ從フテ處分スヘキモノトス

第一條 各裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ爲スニ當リ身代限ニ遭

フ者ノ物件ノ内ニ身代限ニ遭フモノヨリ他人ヘ貸付オキタル金穀ノ證文有之キハ其證文ノ定約期限ノ滿未滿ヲ論セス証文ニ名記シタル負債主ヨリ証文面ノ通り可受旨身代限ニ遭フ者ノ債主ヘ申渡シ別紙雛形ニ習ヒ証文ニ裏書ヲナシ其債主ニ相

身代限

渡スヘキヲ

第二條 前條ノ場合ニ於テ債主ツノ證文ヲ受取ルヲ好マサル片  
ハツノ証文ハ身代限ニ遭タル者ニ所持致サセ置クヘキヲ

但シ定約満期ノ証文ニテ負債主ノ家産些少ナルモ身代限ニ  
遭フ者ノ債主ニ於テ負債主ノ身代限ヲ次ノ現今ノ割賦ヲ請  
度旨申立ルニ於テハ望ノ通り處分スヘキ事

第三條 債主數名ニシテ身代限ニ遭フ者ヨリ他人へ貸付置タル  
金穀ノ証文一通又ハ數通ナル片ハ數名ノ債主ニ入札致サセ落  
札ノ金員ヲ以テ其落札シタル債主ト其他ノ債主トへ金高ニ應  
シテ配當シツノ落札ノ証文ニハ一通毎ニ第一條ノ方法ニ依リ  
處分スヘキヲ

但シ數名ノ債主盡ク入札ヲ不好トキハ第二條ノ處分ニ及フ  
ヘキヲ

第四條 證文ヲ落札シタル債主証文ニ記名シタル負債主ヨリ金  
ヲ受取リタル片ハ其金員中ヨリ已レノ受取ルヘキ金高ト之ヲ  
受取ルニ付テノ諸入費ノ金高トヲ引去リ其余金ハ証文ニ記載  
シアル債主ニ返シ而シテ計算ヲナシタル明細勘定書ト餘金ヲ  
返シタル受取書トヲ以テ裁判所ニ届ケ出ツヘキヲ

第五條 若シ証文ヲ落札シタル債主証文ニ記名シタル負債主ヨ  
リ金ヲ受取ラントスルニ証文ニ記名シタル負債主モ又身代限  
リニ遭ヒテ証文ニ記ルシタル金員ノ全部又ハ幾部ヲ返シ能ハ  
サル片ハ証文ニ記名シタル負債主ヨリノ証文ヲ落札シタル債  
主ニ對シ右ノ部分金員ヲ身代持直次第返濟スヘキ旨ノ証文ノ  
裏書ヲ裁判所ヨリ受取ルヲ得ヘキヲ

但此時曩ニ身代限ニ遭ヒタル者ノ裏書証文ヲ持出スヘシ裁  
判所ニ於テハ之ニ金員ノ差引ヲ記載シ一通ノ証書ヲ一綴ニ

身代限

シテ下付スヘシ

第六條 証文ヲ落札シタル債主証人ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取ルヘキ期限ニ至ラサル時証文ニ記載シタル債主即チ曩ニ身代限ニ遭ヒシ人巳ニ身代持直シタルトキハ直ニ其人ニ對シ再ヒ金穀ノ返濟ヲ請求スルヲ得ヘキ

証文裏書雛形

表書ノ貸主何ノ誰儀年號月日身代限申付候ニ付此証文ハ（入札ヲ以テ渡スルハ此間ニ入札ヲ以テノ五字ヲ書キ加フヘシ）某府縣管下某國某郡某町何ノ誰ニ相渡シ候條此証書ノ金額ハ右何ノ誰ニ濟口致候上其段當裁判所ニ可届出事

年號月日

某裁判所印

負債主身代限ニ逢フタル者ハ債主タル者ハ定約期限内トイヘテ訴ヘ出ツルヲ得ヘシ其規則テハ左ニ掲ク

第一條 貸金穀又ハ義務ヲ得ヘキ者定約期限未滿内ニハ訴出ルコトヲ許サ、ル規則ナレモ其負債者又ハ義務ヲ行フヘキ者右期限未滿ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルコトヲ得ヘシ

第二條 定約期限未滿内ニ訴出ル者ハ滿期後訴出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財產糶賣金ノ配分ヲ受ルコトヲ得ヘシ

第三條 請人証人等連印ニテ本人返濟相滯ルニ於テハ引受返濟可致ノ明文有之證書ヲ取置キタル者ハ本人身代限財產糶賣米金ノ配分ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノ時ニ至リ請人証人ニ係リ之ヲ訴フルコトヲ得ヘシ

第四條 身代限ニ遇フ者期限未滿内ノ者ニハ滿期ノ時ニ至リ返濟セント欲スル片ハ別段請人ヲ立テ請人ヨリ動不動産ヲ引當テ又ハ質物トナシ違變ナキヲ證トシテ原告人ノ承諾ヲ求ムルヲ必要トス

身代限

第五條 附籍者満期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立テ請人ヨリ動  
不動産ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シテ原告人之ヲ  
承諾スル片ハ其原告人ハ此回ノ身代限財産糶賣金ノ配分ヲ求  
ムルヲ得ヘカラス

第六條 定約期限未滿内ノ債主ハ身代限ニ遇フ負債主ニ對シ期  
限未滿内ニ訴フルモ満期後ニ至リ訴フルモ其者ノ情願ニ任ス  
ト雖身代限ニ遇フ者ノ動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置キマ  
ル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ糶賣ヲ爲スニ付已ノ請取ヘキ  
金高ヲ求ムルヲ得ヘキノミニテ糶賣ヲ爲スヲ拒ムヲ得ヘ  
カラス

第七條 動不動産ヲ引當テ又ハ質物ニ取リタル者ハ其財産糶賣  
金ノ内ニテ金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ証書ニ據リ  
處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ請取ヘキノ求メテ爲シ裁判所ニ於

テハ糶賣金配分ノ規則ニ從ヒ引當又ハ質物ヲ取置タル者ニ配  
分スヘキ金高ヲ引渡スヘシ

第八條 引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿内  
ニ訴出ル片ハ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ証書ニ  
據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ請取ヘキノ求メテ爲シ裁判所ニ於  
テハ糶賣金配分ノ規則ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

第七拾七章 訴答文例

○明治六年七月十七日布告

第二百四拾七號

今般訴答文例并附錄別冊ノ通被相定候ニ付來ル九月一日ヨリ原告人共訴答文式都テ此例ニ照準可致此言相達候事

別冊

訴答文例

第一卷 原告人ノ訴狀

第一章 原告人ヨリ被告人住所身分ノ書付ヲ取ル事

第一條 訴訟ヲ爲サントスル原告人ハ其管轄ノ<sup>町</sup>村役場ノ添翰ヲ以テ被告人ノ現住管轄ノ<sup>町</sup>村役場ニ至リ被告人ノ身分ノ書付ヲ取リタル後訴狀ヲ作シル可シ若シ住所氏名身分明瞭ナラハ其書付ヲ取ルニ及ハス

住所トハ某<sup>府</sup>縣管下某國某郡某<sup>町</sup>村住居又ハ寄留ト記スノ類身分トハ官名役名華族神職僧尼百姓何職何商賣何渡世ト記スノ類若シ一戶ノ本主ニ非ラスシテ子弟又ハ厄介ノ類ハ某ノ子弟又ハ某厄介ト記スヘシ

第二條 原告人被告人ト管轄ヲ異ニシ道路隔絶ナラハ原告人我管轄ノ<sup>町</sup>村役場ニ願ヒ役場ノ文通ヲ以テ被告人ノ氏名住所身分ノ書付ヲ取ルモ亦妨ケ無シトス但シ役場文通ノ入費ハ原告人ヨリ償フ可シ

但此章原告外國人ナル時ハ本人名前本國職分及ヒ寄留ノ處ヲ訴狀中ニ記載シ次ニ被告ノ名前職分住所等委細記載ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三條

訴答文例

第四條

第五條

(此一章ハ明治七年第七十五號布告ヲ以テ改正セラル)

第三章 訴狀ノ定則ノ事

第六條 訴狀ヲ作クルニハ左ノ定則ニ循フ可シ

第一 訴狀ハ簡明確實ニシテ憑據ト爲ス可キ事件ヲ掲ケ文飾冗長ナラサルコトニ注意シ自己ノ想像ヲ以テ踪跡ナキ事件ヲ述ルコトヲ得ス

第二 一切ノ訴狀ハ首ニ原被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ其末ニ年月日ヲ記シ原告人ト代書人トノ氏名連印スヘシ(附錄第一號ヲ見合ス可シ)

但外國人ノ爲メニハ第一章但書ヲ見ルヘシ  
第三 訴狀ノ末ニ署スル氏名ハ其本人自署ス可シ若シ自署ス

ルコト能ハサル時ハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記スヘシ

第四 訴狀ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具ス可シ

但外國人ノ訴狀ハ銘々英佛語ヲ以テ認ルコトヲ得ヘシ其日本翻譯ハ裁判所ニ於テ正副二通ヲ認メ其手数料ヲ取立ツヘシ

第五 被告人ノ住所呼出テ受シ可キ裁判所ノ八里ノ距離外ニ在ル時ハ其里數ヲ被告人ノ氏名ノ左側ニ記載ス可シ若シ八里以内ナル時ハ其里數ヲ記載スルニ及ハス

第四章 訴狀ノ書式ノ事

第七條 貸附米金等淹滞ノ訴狀

貸附米金等淹滞ノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ米金元利ノ計算ト貸渡シタル年月日トヲ標記シ次ニ證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ期ヲ

訴答文例

過テ返濟セサル事情ヲ書スヘシ  
（附録第二號ヲ見合ヌ可シ）  
田島ヲ貸渡シタル小作米金又ハ物品ノ損料金又ハ諸種ノ立替金又ハ召抱人等ノ引負金又ハ職人等ノ前貸米金又ハ貸地貸家等ヲ受取ラントスルノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ

但以下十九條迄原告外國人ナル時ハ其訴訟ノ越意并願意ヲ簡明ニ記載スヘシ

但附録第十八號ヲ見合ヌ可シ

第八條 預ケ米金淹滞ノ訴狀

預ケ米金淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ米金ノ員數ト預ケタル年月日トヲ標記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約シテ返濟セサル事情ヲ書スヘシ  
借地等ノ敷金又ハ妻子養子女等ノ持參金又ハ實家若ハ親族等ノ仕送金ヲ受取ントスルノ訴狀モ亦本條ニ照スヘシ

第九條 賣掛代金淹滞ノ訴狀

賣掛代金ノ淹滞訴狀モ住所氏名ノ次ニ金高ヲ標記シ次ニ其帳面總計ノ高ヲ出シ之ニ「被告人ノ證印アル」ヲ記入シ「次ニ違約淹滞シタル事情ヲ書スヘシ」  
（附録第三號ヲ見合ヌヘシ）

（被告人以下ノ數字ハ明治十年第四十四號布告及ヒ）

賣掛代金云々（此項明治十年第四十四號布告及ヒ）  
（司法省丁第二十七號達ヲ以テ刪除）

第十條 手附金賣買違約ノ訴狀

諸物品ヲ買ヒ手附金ヲ渡シ約定期限内ニ殘金ヲ渡サントスル時ニ至リ被告人違約シテ諸物品ヲ渡サ、ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ買附タル物品ノ總高次ニ手附金ヲ渡シタル年月日及ヒ殘金ヲ渡シ物品ヲ受取ル可キ約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ  
（附録第四號ヲ見合）



（大可）  
 諸物品ヲ賣リ手附金ヲ受取リ約定期限ニ至リ殘金ヲ受取ル可  
 キ時ニ被告人違約ノ渡金ヲ渡サ、ルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ  
 手附金ヲ受取リタル年月日及ヒ殘金ヲ受取リ物品ヲ渡ス可キ  
 約定期限ノ年月日ヲ標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違  
 約ノ事情ヲ書ス可シ（附録第五號ヲ見合ス可シ）

第十一條 受負料淹滞ノ訴狀

諸職業受負淹滞ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ受負ヒタル年月日ト  
 受負ノ金高ト既ニ受取リタル金數ト未タ受取ラサル金數トヲ  
 標記シ次ニ約定書ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書スヘシ

第拾二條 奉公人違約ノ訴狀

奉公人ニ年期ヲ約シ前金ヲ渡シ其年期未滿内ニ其家ヲ出テ還  
 ラサル者ヲ取返サントスルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ抱入レタ

ル年月日ト約定ノ年期ト前渡シノ金數トヲ標記シ次ニ其證書  
 ノ全文ヲ寫載シ次ニ違約ノ事情ヲ書ス可シ

職業傳習ノ弟子職業練熟ノ後ハ禮奉公ノ年期ヲ約シ年期未滿  
 内ニ其家ヲ出テ還ラサル者ヲ取戻サントスルノ訴狀モ亦本條  
 ニ照スヘシ

奉公人又ハ弟子奉公ノ者等其主人師匠ヨリ受取ル可キ給米金  
 淹滞ノ訴狀モ亦本條ニ照ス可シ

第拾三條 專賣免許ヲ犯シタルノ訴狀

專賣ノ免許ヲ得タル者ヨリ他ノ摸倣密賣スル者ヲ差留メント  
 スルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ專賣免許ヲ得タル年月日ト免許  
 ヲ受ケタル役所ノ名ト專賣免許ノ年限トヲ標記シ次ニ免許ノ  
 証印又ハ證書ヲ寫載シ次ニ其密賣ノ事情ヲ書ス可シ  
 諸商工專賣ノ免許ナクシテ株式ト稱スル者ハ自己ニ妨アルヲ

以テ他人ノ商業ヲ差留ル事ヲ訴フルヲ得ス

第拾四條 商社中取引ノ訴狀

商社中甲ノ人ヨリ乙ノ商人ニ對シ各種ノ取引ノ米金又ハ物品ノ類ニテ乗合商賣ト稱スル者モ証書確實ナル者ハ之ヲ訴フルヲ得可シ其訴狀ハ取引ノ模様ニ付キ各種ノ本條ニ照ス可シ先ニ開キシ商社ニ後ニ開カントスル商社ノ妨クルヲアルヲ以テ之ヲ訴ルヲ得ス但シ專賣免許ヲ犯スヲ得サルトノ法相牴觸スルヲナカル可シ

(第拾三號ヲ見合ス可シ)

第拾五條 夫妻離別ノ訴狀

夫妻離別ノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ夫妻ノ氏名生年及ヒ婚姻ノ年月日ヲ標記シ次ニ其戸長役場へ届置キタル戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離姻ヲ爲ス可キ原由ヲ書ス可シ

原告人夫ナレハ其父母若シ父母在ラサレハ祖父母祖父母在ラ

サレハ尊族ノ親在ラサレハ同等ノ親同等ノ親在ラサレハ卑族ノ親卑族ノ親在ラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲ爲ス可シ

(附録第六號ヲ見合ス可シ)

原告人妻ナルモ前條ニ照シテ其父母親族等ヨリ訴フ可シ若シ事危急ニ出テ親族等ニ告ルニ暇ナキハ自ラ訴フルヲ得可シ

第十六條 養子女離別ノ訴狀

養子女ヲ離別スルノ訴狀モ住所氏名ノ次ニ養父母及ヒ養子女ノ生年ト其養子女ト爲シタル年月日ヲ標記シ次ニ原被双方ノ戸籍人別ヲ寫載シ次ニ離別ス可キ原由ヲ書シ原告人親族アラサレハ近隣又ハ朋友ノ内二人以上ノ奥書連印ヲナス可シ本生父母ヨリ養子女ヲ取戻サントスルノ訴狀モ本條ニ照ス可シ本生父母在ラサレハ其親族ヨリ訴ルヲ得可シ養子女ヨリ

養父母ヲ相手取りテ自ラ離別ヲ請フノ訴ヲナスコトヲ得ス

第十七條 家督相續ノ訴狀

家督相續ヲ争フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ亡父母ハ死亡ノ年月日生父母ハ其生年ト原被告人生年トヲ標記シ次ニ其原被雙方ノ戸籍人別ト讓狀遺狀等ノ証書アレハ其全文ヲ寫載シ次ニ自己相續ス可キ條理ヲキコトヲ書ス可シ  
(附録第六號ヲ見合ス可シ)

第十八條 田畑山林等賣買違約ノ訴狀

田畑山林屋敷建家等ヲ買ヒ之ヲ受取ラントスルノ訴狀及ヒ貸地貸家ヲ取戻サントスルノ訴狀モ第十條ノ第一項ニ照ス可シ  
田畑山林建家等ヲ賣リ之ヲ引渡シテ其代價ヲ受取ラントスル訴狀モ第十條第二項ニ照ス可シ

第十九條 經界ヲ争フノ訴狀

國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ争フ訴狀モ住所氏名ノ次ニ其舊

記繪圖ノ枚數ヲ標記シ次ニ被告人ノ非理ヲ書ス可シ

舊記繪圖ノ寫ハ別冊ト爲シ目錄ヲ附シ各番號ヲ朱書ス可シ

繪圖ハ色ヲ以テ區別シ原告ノ區域ハ淺紅色ヲ用ヒ被告ノ區域ハ黃色ヲ用ヒ争フ所ノ區域ハ着色ヲ用ヒス其他ノ經界ハ別色

ヲ用フ可シ  
(附録第七號ヲ見合ス可シ)

但第七條但シ書ヲ見ル可シ

第二十條 控告ノ訴狀

原被告人豫審又ハ終審ノ裁判言渡ヲ受ケ其裁決ニ服セスシテ之ヲ上等ノ裁判所ニ控告セントスルノ訴狀ハ住所氏名ノ次ニ訴訟ノ題目ト其年月日ト裁判ニ呼出サレタル度數其年月日ト訟廷ニ臨ミタル裁判役ノ氏名ヲ知ルヲ得可キニ於テハ之ヲ記載シ次其裁判言渡書ノ寫ト裁決ニ服セサルノ旨趣トヲ書シ且ツ前訴訟狀ノ寫ヲ別冊ト爲シ訴出可シ  
(但書ハ控告上告手續ニ因テ刪除セラル)

訴答文例

豫審云々（此項ハ上等裁判所章程第一條ニ因テ刪除セラル）

第五章 壹冊ノ訴狀ハ一事件ニ止マル可キ事

第二十一條 原被告人共人員多少ニ拘ラズ訴狀ハ一事ヲ壹冊ニ書スルニ限ル可シ又原告人一名ニシテ同時ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ル可シ

第六章 壹冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得ル事

第二十二條 賃借二事以上ニシテ原被告人共別人ニ非ラザレハ壹冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得ヘシ

第七章 原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條 債主連名ノ証文ヲ以テ米金等ヲ貸付タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フ可シ若シ債主連名三人ナルチ一人ニシテ訴フル時ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ証書ヲ以テ訴フヘシ（附録第八號ヲ見合ス可シ）

第二十四條 債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄ニ訴ルモ其便宜ニ從フ可シ

第八章 連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五條 負債主連名ノ借用證文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ル可シ

第二十六條 負債主連名中若シ失踪死亡等ニテ相續人ナキ者ア  
ラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失踪死亡等ノ事ヲ其者管轄  
長某ヨリ承ルト記載スヘシ（附録第九號ヲ見合ス可シ）

第二十七條 負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄  
ニ於テ審判スルチ願モ乙ノ管轄ニ於テスルチ願フモ原告人ノ  
情願ニ任ス可シ

第九章 讓證文ヲ以テ訴フル事

第二十八條 （此條明治九年第九拾九號）  
布告ヲ以テ刪除セラル

訴答文例

豫審云々（此項ハ上等裁判所章程第一條ニ因テ刪除セラレ）

第五章 壹冊ノ訴狀ハ一事件ニ止マル可キ事

第二十一條 原被告人共人員多少ニ拘ラス訴狀ハ一事ヲ壹冊ニ書スルニ限ル可シ又原告人一名ニシテ同時ニ數件ヲ訴フルモ訴狀ヲ各冊ニ作ル可シ

第六章 壹冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得ル事

第二十二條 貸借二事以上ニシテ原被告人共別人ニ非ラサレハ壹冊ノ訴狀ニシテ二件以上ヲ合スヲ得ヘシ

第七章 原告人連名ノ訴狀ノ事

第二十三條 債主連名ノ証文ヲ以テ米金等ヲ貸付タル訴狀ハ連名ヲ以テ訴フ可シ若シ債主連名三人ナルチ一人ニシテ訴フル時ハ他ノ二人ヨリ依頼ノ証書ヲ以テ訴フヘシ（附録第八號ヲ見合ス可シ）

第二十四條 債主二人以上ニシテ管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ訴ルモ乙ノ管轄ニ訴ルモ其便宜ニ從フ可シ

第八章 連名ノ被告人ヲ訴フル事

第二十五條 負債主連名ノ借用證文ヲ以テ貸渡シタル米金等ノ訴狀ハ連名ノ人數ヲ盡ク相手取ル可シ

第二十六條 負債主連名中若シ失院死亡等ニテ相續人ナキ者アラハ連名ノ末ニ其人名ヲ記シ年月日失院死亡等ノ事ヲ其者管轄戶長某ヨリ承ルト記載スヘシ（附録第九號ヲ見合ス可シ）

第二十七條 負債主ノ連名中管轄ヲ異ニスル者アラハ甲ノ管轄ニ於テ審判スルヲ願モ乙ノ管轄ニ於テスルヲ願フモ原告人ノ情願ニ任ス可シ

第九章 讓證文ヲ以テ訴フル事

第二十八條 此條明治九年第九拾九號（布告ヲ以テ刪除セラレ）

訴答文例

第二拾九條 父母祖父母等ノ貸付タル米金等ハ其家ノ相續チ爲シタル者ニ非レハ其子孫ニシテ貸付証文ヲ所持スト雖モ父母祖父母等ノ讓渡シタル證書ナキ時ハ之ヲ訴フルコトヲ得ス

但外國人ハ其本人ノ國法ニ隨ヒ正シキ權ヲ得ヘシ  
○明治九年七月六日布告  
號布告ヲ以テ削除セラル

第九拾九號

金穀等借用証書ヲ其貸主ヨリ他人ニ讓渡ス時ハ其借主ニ証書ヲ書換ヘシムヘシ若シ之ヲ書換ヘシメサルニ於テハ貸主ノ讓渡証書有之トモ仍ホ讓渡ノ効ナキモトス此旨布告候事  
但相續人ニ讓渡候ハ此限ニアラス

第拾章 代言人ノ事

第三拾條

第三拾一條

第三拾二條

（此章ハ明治九年第十八號）  
○明治九年二月二十日布告

第拾八號

明治六年（七月）第二百四拾七號布告訴答文例中代言人ノ條來三月三十一日限廢シ候條此旨布告候事

第二卷 被告人ノ答書

第一章 答書ノ定則ノ事

第三拾三條

第一 被告人ノ陳述スル所條理アラハ速ニ熟議シ原告人之ヲ許諾

セハ解訟ヲ請フ事ヲ得ヘシ此場合ニ於テハ代理人~~除~~チシ  
テ熟議解訟ノ答書ヲ作ラシメ之ヲ裁判所ニ呈スヘシ~~除~~第十七

條及第四十八條)  
第二 原告ノ述ル所非理不實ニシテ辨解ス可キ確證アラハ其  
書類ノ全文ヲ寫載シ次ニ非理不實ノ事ヲ書ス可シ

第三 答書ノ首ニ被告人ノ氏名ヲ記シ住所身分ヲ肩書ニシ答  
書ノ末ニ年月日ヲ記シ被告人ト代書人~~除~~トノ氏名連印ア  
ル可シ~~附錄第十三號~~

第四 答書ノ末ニ氏名ハ其本人ノ自筆ヲ用ユ可シ若シ自署ス  
ルヲ能ハサルハ其旨ヲ氏名ノ肩ニ記ス可シ

第五 答書ハ十六行ニシテ一行十五字詰ニ認メ正副二通ヲ具  
ス可シ

第二章 代書人ヲ用フル事

第三十四條 ~~此條ハ明治七年第七十五~~  
~~號布告ヲ以テ刪除セラレ~~

第三章 代書人ノ事

第三十五條

第三十六條

第三十七條

~~此章モ亦前卷第十章ト同~~  
~~シ削除セラレ故ニ零ス~~

第四章 原告人ノ返リ證文ヲ所有シタル答書ノ事

第三十八條 負債主米金等ヲ返濟スルニ債主原ノ證書ヲ還附セ

サルヲ以テ二重ノ催促ヲナス訴訟ハ被告人其答書ニ返リ證文  
返リ證文ハ債主ヨリ原ノ證書ヲ還附セスシ  
テ其米金ヲ受取ノ證書ヲ交付スルヲ云フ  
ナ記載シ次ニ原  
告人二重ノ催促ヲ爲シタル旨ヲ書ス可シ

第三十九條 原告人米金等ヲ受取リタルノミノ證書ニシテ貸附

ノ米金ヲ受取リタル確證ノ文字ナク又ハ他ノ憑據トス可キ証跡ナキ時ハ其米金ヲ受取リタルノミソ證書ヲ以テ返リ證文ト看做スヲ得ス

第五章 原告人ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル答書ノ事

第四拾條 借用ノ米金等ヲ返濟ス可キ期限ニ至リ負債主ヨリ債主ニ熟議シテ返濟延期ノ約ヲ結ヒ其證書ニ押印ヲ爲シタル債主ヨリ其約ヲ破リ本證文ニ據リ訴ヘタル答書ハ對談一札(對談一札トハ返濟延期ノ證書ヲ云フ)アルヲ記シ次ニ其證書ノ全文ヲ寫載シ次ニ原告人ノ約ヲ破リタルヲ書スヘシ

第四拾一條 負債主ヨリ返濟延期ノ約ヲ破リタル事件ヨリ起リ債主本證文ニ據リ訴出タル原由アル時ハ負債主ナル者巳レヨリ約ヲ破リタル返濟延期ノ證書ヲ以テ原告人破約ノ證ト爲スヲ得ス

第六章 原告人證書ヲ偽造シタル答書ノ事

第四拾二條 被告人ノ書證ヲ原告人偽造シタル答書ハ其偽造証スル爲ニ管轄町ノ役場ニ届ケ置キタル年月日ノ人別帳ノ寫ヲ記載シ次ニ此人別帳ノ印ト證書ノ印ト相違シタル旨ヲ書ス可シ

第七章 經界ヲ爭フ答書ノ事

第四拾三條 國郡鄉村山川田宅等ノ分界ヲ爭フ答書ノ方法ハ第十九條ヲ照ス可シ

第八章 既ニ訴ヘラレタル事件ニ未タ訴ヘサル事件ヲ接續スル事

第四十四條 負債主米金ヲ返濟ス可キ期限ヲ過キテ返濟セサルヲ訴ヘラレタルニ別ニ其債主ヨリ受取ル可キ米金アリテ其受取ル可キ期限モ亦過キ未タ訴ヘスト雖モ雙方均ク返濟ノ期約

訴答文例

九百九十九



ヲ破リタルヲ以テ兩件ヲ按續シ差引ノ計算ヲ爲サントスル答  
書ハ負債主ヨリ其別ニ受ク可キ米金ノ證書ヲ寫載シ次ニ差引  
計算ヲ爲スノ旨ヲ書ス可シ

第四十五條 負債主甲某債主乙某ヨリ借用シタル米金ヲ返濟ス  
ヘキ期限ヲ過キテ訴ヘラレタルニ答フルニ當リ甲某其借用シ  
タル米金ハ更ニ丙某ニ貸附ケ其期限ヲ過キ返濟セサルヲ以テ  
既ニ訴ヘラレタル乙某ノ事件ト未タ訴ヘサル丙某ノ事件トヲ  
接續シテ丙某ノ返濟ヲ爲ス可キ米金ヲ以テ乙某ニ返濟センコ  
ト答ルヲ許サス何トナレハ乙ノ貸ス所ノ者甲ニシテ丙ニ非ス  
丙ノ借ル所ノ者ハ甲ニシテ乙ニ非ラサルヲ以テナリ

第九章 對決前熟議解訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四十六條 被告人訴狀ニ對シ辨解スルコト能ハサル者ハ速ニ原  
告人ト熟議シ對決前ニ解訟ヲ爲シタル答書ハ原告人承諾ノ與

書連印ヲ爲サシム可シ (附錄第十四號  
ヲ見合ヌ可シ)

第四拾七條 前條ノ場合ニテ貸借淹滞ノ訴ニ起ル解訟ノ答書ハ  
償ノ既濟又ハ未濟ト雖モ更ニ延期ノ約ヲ結ヒタル等ハ前條ニ  
照ス可シ各種違約ノ訴訟ハ原被雙方ノ熟和ニ至リ又ハ更ニ改  
定ノ條約ヲ立テタル等モ亦前條ニ照ス可シ

第拾章 對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書ノ事

第四拾八條 原被告人對決審判前ニ被告人ヨリ負債ヲ返濟スル  
ノ延期ヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シ其審判ヲ仰カス延期ノ日ニ至  
リ完シ返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈セントスル者ハ其答書ニ  
延期ノ旨趣ヲ書シテ原告人承諾ノ與書連印ヲ爲サシム可シ

(附錄第拾五號  
ヲ見合ヌ可シ)

第拾一章 對決前親戚又ハ朋友ヨリ代償ノ延期ヲ約シテ解  
訟ヲ爲シタル答書ノ事

第四拾九條 原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ  
被告人ノ負債ヲ延期代償セシムヲ請ヒ原告人之ヲ承諾セハ熟  
議解訟ノ答書ニ其延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及原告人ノ與  
書連印ヲ爲サシム可シ(附錄第拾六號)  
ヲ見合ヌ可シ

第拾二章 前決對親戚又ハ朋友ヨリ代償延期ノ約定ヲ爲シ  
タル答書ノ事

第五拾條 原被告人對決審判前ニ被告人ノ親戚又ハ朋友ヨリ被  
告人ノ負債ヲ延期代償セシムヲ請ヒ原告人之ヲ承諾シテ其審  
判ヲ仰カス延期ノ日ニ至リ完シ返濟スルノ後解訟ノ證書ヲ呈  
セシトスル者ハ其答書ニ延期代償ノ旨趣ヲ書シ代償人及ヒ原  
告人ノ與書連印ヲ爲サシム可シ(附錄第拾七號)  
ヲ見合ヌ可シ

訴答文例附錄  
第一號

訴狀表紙ノ式(美濃紙大半紙又ハ右寸法)  
ニ同シキ紙ヲ用ユ可シ

某訴狀	年月日
住所	
身分	
氏名	

某訴狀トハ假令ハ貸金ノ淹滯ヲ訴フルハ貸金催促ノ訴狀ト記  
シ流質地ノ訴訟ハ流質地引渡催促ノ訴狀ト記スノ類  
訴狀ノ式

住所	
身分	
原告人	
氏名	

住所  
身分  
氏名

被告人

標記云々

右原告人氏名申上候私儀云々

年月日

住所  
身分  
氏名

代書人

住所  
身分  
氏名

御裁判所

某

(改正)明治六年九月七日布告  
第三百拾二號

訴答文例附録中訴狀宛所某御裁判ト有之處每號トモ同第拾八號  
書式ノ通り相定メ候條此旨更ニ布告候事  
第二號

貸金催促ノ訴狀

住所  
身分  
氏名

原告人

貸金催促ノ訴

住所  
身分  
氏名

被告人

一元金何圓(年月日貸附)  
年月日期限

一利金何圓一年又ハ一月幾分ノ利

合何圓

右証文ノ寫左ノ如シ

借用證文

一金何圓

右云々

借主

氏

証人

氏

名

名

貸主

名當

右原告人氏名申上候云々

住所

千〇〇七

第三號

賣掛代金淹滞ノ訴狀

年月日

身分

氏

名

印

住所

身分

氏

名

印

代書人

某

御裁判所

住所

身分

原告人

氏

名

賣掛代金淹滞ノ訴

訴答文例

住所  
身分  
被告人 氏 名

一金何圓

右賣掛帳ノ總計ニ御座候  
但帳面ニ被告人ノ證印有之候  
若賣掛帳ニ非スシテ證文ナレハ其證文  
全文ノ寫ヲ出ス可シ

右原告人氏名申上候云々

年月日 氏 名 印

住所 氏 名 印

身分 氏 名 印

代書人 氏 名 印

第四號

某  
御裁判所

買附米引渡違約ノ訴狀

住所 身分 原告人 氏 名

買附米引渡違約ノ訴

住所 身分

被告人 氏 名

一年何石  
（年月日買取約定濟  
此度受取ル可キ石高）

代金何圓 (一石ニ付何圓換)

年月日手附金トシテ渡濟

残何圓 年月日限現米引替ニ渡ス可キ約定

右約定證書ノ寫左ノ如シ

證書云々々

右原告人氏名申上候云々々

年月日

氏名 印

住所

身分

代書人 氏名 印

某

御裁判所

第五號

賣附生系代金引渡違約ノ訴狀

住所

身分

原告人 氏名

住所

身分

被告人 氏名

一金何圓 (年月日限生系引替ニテ受取ル可キ殘金高)

元金何圓 (年月日生系何斤賣附約定ノ金高)

但何斤ニ付何圓替

内何圓 (年月日手附トシテ受取濟)

訴答文例

右約定證ノ寫左ノ如シ  
證書云々々

右原告人氏名申上候云々

年月日

住所

氏名

印

身分

氏名

氏名

印

代書人

某

御裁判所

第六號

妻離別ノ訴狀

住所

身分

原告人

氏名

名

妻離別ノ訴

住所

身分

氏名

名

被告人

夫 氏名

當何歳

妻 氏名

年月日 娶ル

某御役所ニ差出置候年月日ノ戸籍人別帳  
ノ寫左ノ如シ

人別帳云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

住所

氏名

印

第七號

前書申上候處相違無御坐候

代書人 氏名 印  
身分

住所

年月日

原告人ノ祖 氏名 印  
父母父母等 氏名 印

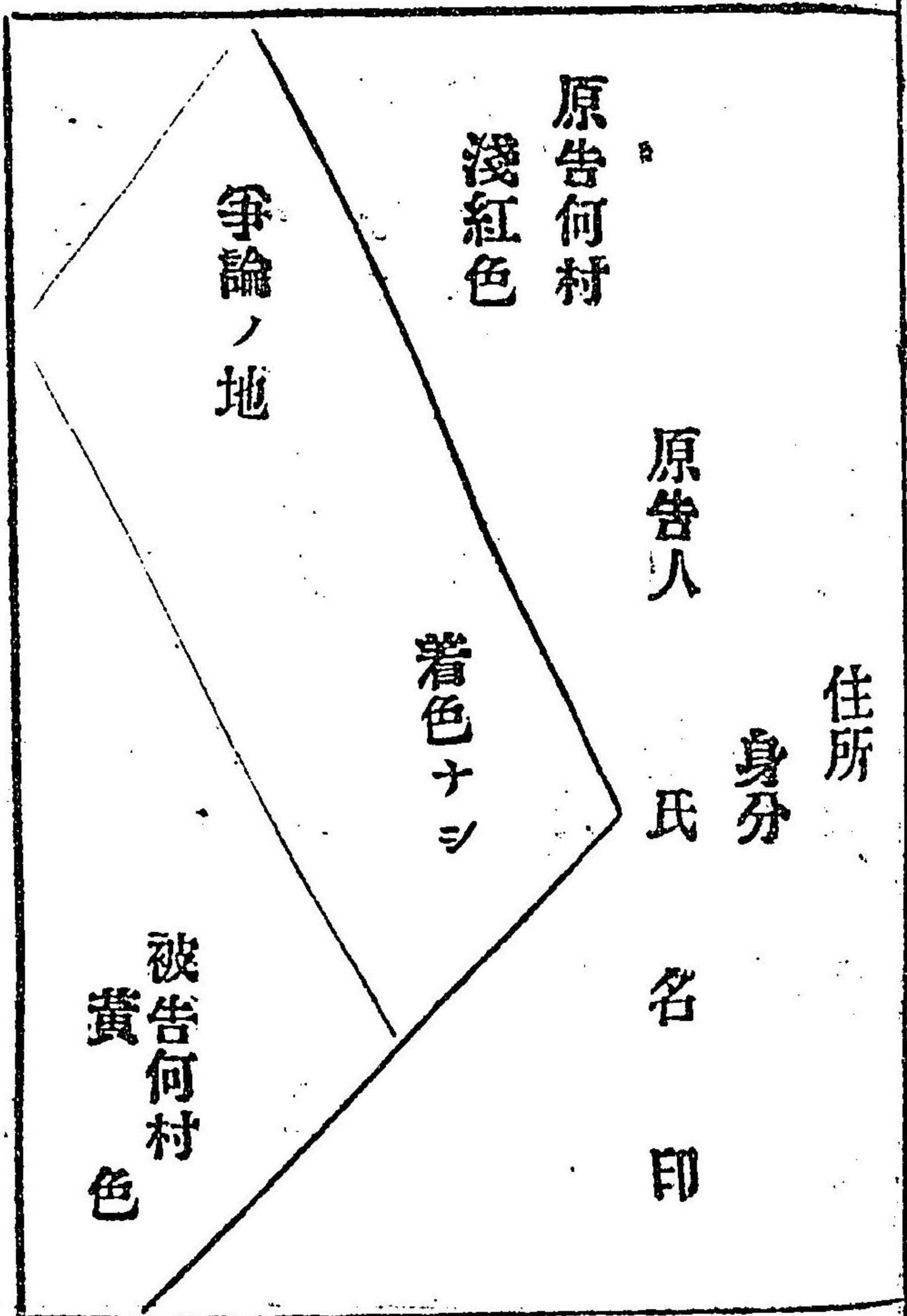
某 御裁判所

經界ヲ爭フ繪圖ノ式

年月日ノ原圖 何枚ノ一

年月日寫之

第八號



原告人三人以上ナルチ一人ニ任スル訴狀

訴答文例



某ノ訴

原告人

住所

身分

氏

名

住所

身分

氏

名

被告人

標記云々

右原告人氏名申上候云々

年月日

住所

身分

氏

名

印

代書人

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上等ニ御坐候處病氣云々ニテ難罷出ニ付何ノ誰總代相頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日ニ至リ私共ヨリ異儀申上問敷候爲後證與印仕候

住所

身分

氏

名

印

住所

身分

氏

名

印

住所

身分

某  
代書人  
氏名印  
御裁判所

第九號

被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴

住所	身分	氏名
原告人	某ノ訴	
住所	身分	氏名
被告人	元住所	

住所	身分	氏名
被告人	右何ノ誰ハ年月日脱走致候 段何村役人何ノ誰ヨリ承知 仕候	
住所	身分	氏名
被告人	右何ノ誰ハ年月日死亡致候 段何村役人何ノ誰ヨリ承知 仕候	
住所	身分	氏名
原告人	右原告人氏名申上候云々	
年月日		

某	住所
御裁判所	身分
	氏名
	印
代書人	

第拾號

讓證文ヲ以テ催促スル訴狀(此一號ハ明治九年第九拾九號布告ヲ以テ削除セラル)

第拾一號

代書人ヲ頼ム訴狀(此一號明治九年第九拾八號布告ヲ以テ消除セラル故ニ零ス)

第拾二號

一時假リノ代書人ヲ出ス證書(此一號モ亦前號ト同シ故ニ零ス)

第拾三號

答書表紙ノ式(用紙寸法第一號訴狀ノ法ノ如シ)

年月日	住所
某ノ答書	身分
	氏名
	住所
	身分
	氏名
	住所
	身分
	氏名
答書ノ式	
某ノ答	
右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出之御狀拜見仕御答申上候私儀云々	

證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ  
右之通御坐候  
年月日 氏名印

某  
御裁判所  
代書人 氏名印  
住所 氏名印  
身分 氏名印

第拾四號

對決前熟議解訟ノ答書

住所 氏名印  
身分 氏名印  
被告人 氏名

某ノ訴濟口ノ答  
右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日  
御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談濟方仕候趣  
申上候

私儀云々  
年月日 氏名印  
住所 氏名印  
身分 氏名印  
代書人 氏名印  
前書被告人何ノ誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候  
ニ付此上對決ノ御裁斷不奉願候  
住所 氏名印  
身分 氏名印

訴答文例

年月日 原告人 氏名 印

住所

身分

代書人 氏名 印

某

御裁判所

第拾五號

對決前返濟延期ノ約定ヲ爲シタル答書

被告人 住所 身分 氏名

某ノ訴濟口日延ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日  
御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談ノ上濟方日  
延約定仕候段左ノ通御座候

私儀云々

年月日 住所 氏名 印

住所

身分

代書人 氏名 印

前書被告人何之誰申上候通熟談ノ上濟方日延  
約定仕候ニ付來何年何月何日マテ御裁斷御猶  
豫奉願候

住所

身分

年月日 被告人 氏名 印

住所

身分

訴答文例

某  
御裁判所  
代理人 氏名 印

第十六號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解訟ノ答書

住所  
身分  
被告人 氏名

某ノ訴何之誰ヨリ日延代償ニテ濟口之答  
右住所身分何之誰何々之儀訴出候ニ付今何日  
御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談ノ上親族中  
何ノ誰ヨリ日延代償約定仕候段左ノ通御座候  
私儀云々

年月日 住所 氏名 印

代書人 住所 身分 氏名 印

前書被告人何ノ誰申上候通私共ヨリ日延代償  
ノ約定仕候段相違無御坐候

住所 身分  
年月日 代償人 住所 身分 氏名 印

代書人 住所 身分 氏名 印

前書被告人何ノ誰申上候通私共承諾仕候ニ付

此上對決ノ御裁斷不奉願候

住所

身分

原告人

氏名

印

住所

身分

代書人

氏名

印

某

御裁判所

第拾七號

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル答書

住所

身分

被告人

氏名

印

某ノ訴何之誰代償濟口日延ノ答

右住所身分何之誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日

御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談之上親族中

何之誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段左ノ通

御座候

私議云々

年月日

氏名

印

住所

身分

代書人

氏名

印

前書被告人何之誰申上候通私共ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段相違無御坐候

訴答文例

住所  
身分  
代償人 氏 名 印  
住所  
身分  
代書人 氏 名 印  
年月日 原告人 氏 名 印  
住所  
身分  
前書被告人何之誰申上候通熟談之上何之誰  
リ代償濟方日延約定仕候ニ付來何年何月何日  
迄御裁斷御猶豫奉願候

第拾八號

外國原告人ノ訴狀

某  
御裁判所  
代書人 氏 名 印  
身分  
本國住所  
原告人 氏 名  
住所  
身分  
訴狀  
被告人 氏 名  
住所  
身分

訴答文例



右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁  
判所へ左ノ通訴訟申上候

第一云々 但シ訴訟ノ根源事實ノ大畧チ

第二云々 明白ニ認ムヘシ若其事實混交

第三云々 シテ長文ナルルハ第一第二第

三ト之チ區別スヘシ

依之原告ヨリ御裁判所へ云々被成下度願上候  
事

但シ何等ノ所置ハ原告人ノ所  
願ニ候ヤ金子ノ拂カ其金高何  
程カ右判然ト認メ其他公正ノ  
御裁判チ願ノ趣チ認ムヘシ

日本地名

年月日

原告人

氏名 花 押

若シ原告人ノ代言者アルルハ

左ノ如ク加判スヘシ

代言者

氏名 花 押

某

裁判所長

氏名

第七十七章 訴訟入費償却規則

明治九年司法省甲第五號布達ヲ以テ訴訟入費償却規則改正セラ

第一條

訴訟其外書類認料（一枚十六行十五字詰ニ付十錢但シ一枚以下モ同價）

右定限

- 第一 原告人ノ訴狀ノ正本副本
- 第二 被告人ノ答書ノ正本副本
- 第三 訴狀又ハ答書中ニ記載シ難キ證據ノ書類ノ寫
- 第四 審判中ニ原告又ハ被告ヨリ差出シタル證據ノ書類ノ寫
- 第五 訴訟中訴狀ニ關係スルノ事件ニ付原被双方往復ノ文書

第二條

証人并ニ引合人手當 一日ニ付五拾錢

但シ八里以外ヨリ罷出止宿ノ者ハ二拾五錢ヲ増ス

右定限

裁判所へ出席ヲ爲シタル日

第三條

証人并ニ引合人滿八里以外ノ地ヨリ來リ滯留中ノ手當

一日ニ付金五拾錢（本號ハ明治九年四月司法省甲第六號ヲ以テ執行停止）

第四條

証人并ニ引合人 旅費滿八里ニ付拾錢歸路モ同斷

但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付拾錢

右定限

第一 兩線ノ官道甲路ハ遠ク乙路ハ近キ時ハ現ニ甲路ヲ經ル

ト雖モ乙路ヲ以テ計算スヘシ

第二 本條ハ日本國管内ヲ通行スル者ノ爲メニ設ク

訴訟入費償却規則

第五條

原告人又ハ被告人直ナル者ノ手當 一日ニ付五拾錢  
但シ八里外ヨリ罷出止宿スル者ハ二拾五錢ヲ増ス  
右定限

第二條ニ同シ

第六條

原告人又ハ被告人直ナル者八里以外ノ地ヨリ來リ滯留中手當  
一日ニ付五拾錢(本條ハ明治九年四月司法省甲  
第六號布達ヲ以テ執行停止)

第七條

原告人又ハ被告人直ナル者ノ旅費 滿八里ニ付拾錢歸路モ同斷  
但シ八里ヲ越ユレハ每滿一里ニ付拾錢  
右定限

第四條ニ同シ

第八條

通辨雇料

一日ニ付三圓

右定限

第二條ニ同シ往復旅費ヲモ定額ノ通計算スヘシ

第九條

翻譯料

(一枚ニ付十六行十五字詰  
二圓但シ一枚以下モ同價)

右定限

第一條ニ同シ

第十條

測量繪圖認料

右定限

第一 長三百間ニテ盡ル時ハ 百間ニ付一尺ノ割  
西ノ内一枚ニ付拾錢

訴訟入費償却規則

第二 長六百間迄 同拾貳錢 百間ニ付五寸ノ割

第三 長千二百間迄 同拾四錢 百間ニ付三寸ノ割

第四 長六千間迄 同拾七錢 百間ニ付二寸ノ割

第五 長一萬三千間迄 同貳拾錢 百間ニ付一寸ノ割

第六 長一萬二千間以上 同廿四錢 百間ニ付五分ノ割

一測量ニ及ハサル見取繪圖ハ間數ノ長短ヲ論セス大凡見積ヲ以テ簡便ニ圖引致ス可シ 但シ西ノ内一枚ニ付拾錢

第拾一條

使賃 滿一里ニ付拾錢一里未滿ハ五錢但歸路モ同斷

右定限

第一 裁判所ニテ示談中双方承諾ノ上原告被告双方又ハ一方ノ者ヨリ遣シタル使賃

第二 裁判所ニテ示談中原告又ハ被告一方ノ者掛裁判役ノ檢印ヲ經タル使賃

第三 原告又ハ被告一方ノ者出訴中違約シテ出席セサル時掛裁判役ノ檢印ヲ經テ違約ヲ責ムル使賃

第四 原告被告双方ノ爲メ又ハ一方ノ爲メニ双方又ハ一方ノ者ノ申上ニ因リ裁判所ヨリ臨時ニ遣ハシタル使賃

第拾二條

郵便並ニ電信料 定價

訴訟入費償却規則

右定限

第拾一條ニ同シ

第拾三條 身代限ヲ爲スニ付裁判所又ハ縣廳又ハ町村役場ニ納ムヘキ評價人鑑定人等ノ日雇賃金ノ諸入費及ヒ身代限諸雜費

臨時計算ヲ以テ定ム

右ハ前數條ノ入費ニ先ツテ取立ツヘシ

(本節ノ注意) 訴訟入費ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキモノナレハ裁判言渡ノ節ハ必ス曲者ノ辨償ニ歸スヘキ旨ノ言渡アリ而シテ其言渡ヲ受ケタル曲者ニ於テ償却ヲ爲サ、ルトキハ直ニ其執行ヲ裁判所ニ請求スルヲ得但シ訴訟入費ノ言渡ハ訴訟人ヨリ請求ナキ片ハ之ヲ爲サ、ル成規ニ付之ヲ請求セシト欲スルモノハ裁判言渡前ニ申立ツヘシ而シテ之ヲ請求スルニハ通常訴狀ノ末ニ但シ訴訟入費ハ對手人ヨリ辨償

ヲ受度候ト附記スル者ナレトモ口上ニテ請求スルモ妨ケナシ  
訴訟入費ト裁判費トヲ混同スヘカラス訴訟入費ハ原告ニ於テ要セシモノヲ云ヒ裁判費ハ裁判上要セシモノヲ云フ即チ本節ニ掲グル所ハ訴訟用野紙ナレトモ令般發布改正后ハ訴訟印紙代價及其認料證人引合人日當、通辨雇料、翻譯料、郵便電信料、及使賃等ハ則チ訴訟入費ナルヲ以テ直者ハ明細書ヲ製シ之レニ曲者ノ認印ヲ裁判言渡ノ際請ケ置ヘシ且裁判所ニ於テ原被告及ヒ其他訴訟關係人ノ呼出ニ用ヒタル印紙代價并裁判言渡書牒本印紙代價(是等ハ曲者ヨリ裁判言渡ノ日ヨリ三日内ニ裁判所ニ辨納ス)及ヒ訴訟入費償却規則第十三條ニ掲グル評價人鑑定人等ノ日雇賃金身代限諸雜費ノ裁判所ニ納ムヘキ分等ハ皆裁判入費ナリ  
始審控訴上告ニ通スル裁判費訴訟費ノ規則ハ明治十二年司

法省丁第拾號達ニ詳ナリ今其要ヲ掲ケンニ始審ノ曲者ハ其入費ヲ負擔シ控訴ノ曲者ハ始審控訴兩件ノ入費ヲ負擔ス若シ上告ノ曲者控訴ノ曲者ナルキハ始審控訴上告三件ノ入費ヲ負擔シ若シ又上告ノ曲者ハ訴訟ノ直者ナル者ハ唯上告入費ノミヲ負擔シ其己ニ直者ヨリ受取タル始審控訴兩件ノ入費ヲ返償スヘシ大審院ニ於テ原裁判ヲ破棄シ之ヲ他ノ裁判所ニ移シタルキハ其上告入費ハ上告ノ曲者之ヲ負擔シ第二控訴ノ曲者(即チ移訴廳ノ曲者)ハ始審第一控訴并ニ第二控訴合テ三件ノ入費ヲ負擔スヘシ訴訟入費ノ制ハ始審以上ノ裁判所ヘ用ユルモノナレハ勸解ニハ之ヲ適用スヘカラス

第七十八章 代言人規則

○明治十三年五月十三日司法省布達

甲第一號

明治九年當省甲第一號代言人規則左ノ通改正候條此旨布達候事但該規則ニ牴觸スル從前ノ布達ハ總テ廢止タル可シ

第一款 總則

第一條 代言人ハ法令ニ於テ代言ヲ許サレタル詞訟ニ付テ原告又ハ被告ノ委任ヲ受ケ其代言ヲ爲ス者トス

第二條 代言ノ業ヲ爲サント欲スル者ハ第四款ニ掲クル所ノ手續ニ依リ定式ノ試験ヲ經テ司法卿ノ免許ヲ受ク可シ

第三條 免許ヲ受ケシ代言人ハ大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言ヲ爲スヲ得

第四條 代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者左ノ如シ

一 未丁年者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

三 盜罪詐僞罪ニ付刑ヲ受ケタル者

四 國事犯ヲ除クノ外懲役并ニ禁獄一年以上ノ刑ヲ受ケタル者

五 官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケシ者ハ必ス第二款ニ掲クル所ノ代言人ノ組合ニ入リテ其規則ヲ守ル可シ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲スルハ其地組合ノ規則ヲ遵守スヘシ

第六條 代言人新ニ免許ヲ受ケシ時及ヒ他ノ地ニ轉住セント欲スル時ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事(檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者以下之)并ニ會議長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ免許狀ヲ檢事ニ返納ス可シ

第七條 代言免許ハ滿一年(月ヲ以テ算フ)ヲ以テ限トシ免許料ハ金拾

圓トス其業ヲ繼續セント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖モ之ヲ還付セズ

第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受クル時免許料ヲ直ニ檢事ニ納ム可シ

引續出願ノ者ハ必ス免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタル片ハ期限後ニ係リ未タ免狀ノ下付有ラサルモ其儘代言ヲ爲スヲ得ヘシ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ス又ハ期限前ニ於テ引續願ヲ爲サスシテ免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サント欲スル時ハ新規出願ノ手續ニ循フヘシ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出ス可シ但願書ノ副本ニ檢事ノ檢印ヲ受ケ置キ引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代言人タルノ証ト爲ス可シ

第拾一條 代言ヲ爲スニハ必ス詞訟本人ノ委任狀ヲ受ク可シ

第拾二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分ス可シ

第拾三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

第二款 議會

第拾四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄毎ニ一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クス可シ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ因リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルコアル可シ

一 互ニ風儀ヲ矯正スル事

二 名譽ヲ保存スル事

三 法律ヲ研究スル事

四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事

五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事

六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事

七 故ナク時日ヲ遷延セサル事

八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照閱ヲ經可シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第拾五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニテ投票ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ投票ノ數相均シキ時ハ先キニ免許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日相同シキ時ハ年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第拾六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル時ハ之カ代理ヲ爲ス可シ其任期ハ各滿一年トス但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續スルハ三期ヲ以テ限



リトス

第拾七條 第二拾二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アルハ各代  
言人ハ之ヲ會長ニ報告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發ス可シ  
若シ會長告發ヲ遷延シ又ハ其所犯會長ニ係ル時ハ各代言人ヨ  
リ直チニ檢事ニ告發ス可シ

第拾八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次  
十五日ヲ過クルヲ得ス若シ已ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延  
サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル時ハ必ス檢事ノ認可  
ヲ受ク可シ但其會費ハ各代言人ニ於テ之ヲ擔當スル者トス  
第拾九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作り其本貫族籍住所年齢及  
ヒ代言免許ノ年月日ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ  
記ス可シ

第二拾條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ

其旨ヲ會長ニ届出ツ可シ

第二拾一條 會長及リ副會長ト雖モ代言ノ職業ニ付テハ一般ノ  
代言人ト異ナルナシ

第三款 懲罰

第二拾二條 代言人左ノ條件ヲ犯ス時ハ輕重ヲ量リ第二拾三條  
及ヒ第二拾四條ニ依テ懲罰スヘシ

- 一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者
- 二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者
- 三 訟廷ニ於テ相手方ヲ凌辱罵詈シタル者
- 四 詞訟ヲ教唆シタル者
- 五 證據ト爲ル可キ者ヲ捏造シタル者
- 六 他人ノ詞訟ヲ買取リ自己ノ利ヲ圖ル者
- 七 強テ謝金ヲ前収シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者

代言人規則

八 故ラニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ヒ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者

十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者

第二拾三條 懲戒ノ目次左ノ如シ

一 譴責

二 停業

三 除名

第三拾四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二拾

三條ノ罰目ヲ併科スルコトアル可シ

第二拾五條 譴責ハ止タ可責シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一

年以下其業ヲ停メ除名ハ代言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ

後ニ非レハ復タ代言人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀重キ者ハ

終身之ヲ許サス

第二拾條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルキハ其旨ヲ裁判所ノ扣所ニ揭示ス可シ

第四款 出願

第二拾六條 代言免許ヲ願フ者ハ第二拾九條ノ書式ニ倣ヒ願書

ヲ作り現住戸長又ハ區長ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄ノ

檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ク可シ

第二拾七條 出願定月

二月 八月 各上下半ヶ月ヲ以テ限リト爲ス

第二拾八條 試験ノ課目左ノ如シ

一 民事ニ關スル法律

二 刑事ニ關スル法律

三 訴訟ノ手續

代言人規則

四 裁判ニ關スル諸規則

第二拾九條 願書及ヒ履歷書式

代言願

本貫住所(寄留ナル片ハ其寄留所ヲ記入ス可シ)  
身分

氏名

年齢

代言營業仕度ニ付御試験ノ上免許被成下度此段奉願候也

右

氏名印

年號月日

司法卿某殿

前書ノ通出願候ニ付キ奥印致候也

右戸長(又ハ區長)

氏名印

履歷書

本貫住所(寄留ナル時ハ其寄留所ヲ記入ス可シ)  
身分

職業

氏名

年齢

一地名身分何某ニ隨ヒ何年ヨリ何年迄何學修行何某ニ隨ヒ何技術ヲ修行

一何年何月日(官職)ニ任シ何年月日(免官辭職)

一何年月日何々ノ廉ヲ以テ何廳ヨリ賞典ヲ受ク

一何年月日何々ノ犯罪ニ依リ何ノ刑ヲ受ク

一何年月日身代限ノ處分ヲ受ケ何年月日ノ辨償ノ義務ヲ終フ

代言人規則

右之通ニ御座候也

年號月日

代言引續願(免許狀紛失氏名改換ノ時ノ願書モ此式ニ倣フ可シ)

引續代言營業仕度候ニ付免許狀御下付被下度此段奉願候也

(本貫住居寄留ナル時ハ其寄留書ヲ記スヘシ)

免許代言人

年號月日

氏名印

司法卿某殿

○明治十三年十一月廿九日司法省達  
丙第拾六號

明治十二年五月司法省丙第七號達左ノ通改正候條此旨可相心得  
事

文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言營業出願

セシ時ハ明治十三年五月司法省甲第一號布達改正代言人規則第  
二拾七條(出願)第二拾八條(試驗)ニ關セテ免許狀授與候條右出  
願ノ節ハ卒業免狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添ヘ進達可致此旨相達  
候事

但本文試驗ニ關スルモノ、外代言人規則ニ準據スルハ一般

代言人ト異ナルヲナシ

代言人規則

千〇五十五

第八拾章 代人規則

○明治六年六月十八日布告

第貳百拾五號

人民一般商業及ヒ其他ノ事ニ因リ代人ヲ以テ契約取引等致シ候規則別紙ノ通被定候條此旨相達候事

第一條 凡ソ何人ニ限ラス己ノ名義ヲ以テ他人ヲシテ其事ヲ代理セシムルノ權アル可シ

但本人幼年者ニテ其事理ヲ辨シ難キハ其後見人及ヒ親族ノ者協議ノ上代人ヲ任スルヲ得ヘシ

第二條 凡ソ他人ノ委任ヲ受ケ其事件ヲ取扱フ者ハ代人ニシテ其事件ヲ委任スル者ハ本人ナリ故ニ代人委任上ノ所行ハ本人ノ關係タル可シ

第三條 凡ソ代人ハ心術正實ニシテ滿二十歲以上ノ者ヲ撰ム可シ

▽

第四條 代人ハ總理代人部理代人ノ利アリ總理代人ハ其代人身上諸般ノ事務ヲ代理スル者ニシテ部理代人ハ特ニ其委任スル部内ノ事務ヲ代理スルヲ得ルモノトス

第五條 凡ソ本人ヨリ代人ヲ任シ他人ト契約取引等ヲ爲サント欲スルトキハ必ラス實印ヲ押シタル委任狀ヲ與フ可シ

但シ其家業取扱フ場所ニ於テ通常ノ事務ヲ取扱ハシムルノ類ハ別段委任狀ヲ與フルニ及ハス

第六條 委任狀ハ總理代人又ハ部理代人タル事及ヒ其委任シタル權限ヲ明白ニ記載ス可シ

第七條 委任狀書式左之通  
拙者共儀某ノ事件ニ付何誰ヲ以テ總理代人ト定メ拙者ノ名義ニテ左ノ權限ノ事ヲ代理爲致候事

代人裁則

一何々ノ事但權限ノ次第ヲ分條記載ス可シ  
右代理ノ委任狀仍テ如件

住所身分

年號何年何月何日

姓名印

(後見人等ハ住所身分何誰ノ後見人何誰ト記ス可シ)

第八條 代人ヲ任スルノ期限ハ豫メ規定シ難キモノト雖モ其本人幼弱疾病事故等ニテ長シ委任セントスル時ハ其地方ニ新聞紙アラハ之ヲ記入セシメ世上ニ公布ス可シ

第八拾一章 詞訟代人

明治十七年一月廿四日太政官第一號布達

明治十三年(五月)司法省甲第貳號布達左ノ通改正ス

詞訟又ハ勸解ニ付已ムヲ得ス代人ヲ出サントスル者ハ親屬又ハ相當ノ者ヲ選ニ管轄裁判所ノ許可ヲ受ク可シ 但代人タル者同時ニ二人以上ヨリ二件以上ヲ受任シ其他不適當ノ所爲アリト認ムル時ハ裁判所ニ於テ之レヲ差止ムルコトアル可シ

第八拾二章 民事訴訟用印紙規則

明治十七年二月廿三日太政官第五號布告

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス 但明治八年(十二月)第百九拾六號布告訴訟用印紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣司法卿連署

(別紙) 民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニユ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

(金額價額)

五圓マテ 貳拾錢

同拾圓マテ 三拾錢 同貳拾圓マテ 六拾錢

同五拾圓マテ 一圓五拾錢 同七拾五圓マテ 貳圓貳拾錢

同百圓マテ 三圓 同貳百五拾圓マテ 六圓五拾錢

同五百圓マテ 拾圓 同七百五十圓マテ 拾三圓

同千圓マテ 拾五圓 同貳千五百圓マテ 貳拾圓

同五千圓マテ 貳拾五圓 同五千圓以上ハ 千圓迄每貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ

貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ 但人事

ニ於テハ極貧ノモノニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官

ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアル可シ

條四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辨書 證據物寫 辨駁書 辨論書 上申書 陳述書等。

民事訴訟用印紙規則

証人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書。 審判ノ延期ヲ請求スル願書。

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ  
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書。 財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書。 執行命令書ヲ請求スル願書。 身代限ノ處分ヲ請求スル願書。

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下附スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙貼用スヘシ 但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償ス可キモノトス

第九條 印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム 其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒収ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ八拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒収ス

第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用イヌ

明治十七年二月廿三日 太政官第四號布達  
今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定



價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム

淡黑色印紙	一枚	三錢	黑色印紙	同	五錢
赭色印紙	同	拾錢	茶褐色印紙	同	五拾錢
黃色印紙	同	壹圓	青色印紙	同	五圓
橙黃色印紙	同	拾圓	綠色印紙	同	拾五圓
嬌稟色印紙	同	貳拾圓			

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス可シ

明治十七年三月五日 司法省甲第壹號告示

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用野紙規則被廢候ニ就テハ本年四月一日以後民事訴訟ニ關シ大審院又ハ裁判所へ差出ス書類ハ都テ美濃紙又ハ之ノト同尺度ノ紙ヲ用ヒ一枚二十四行一行貳拾字詰ニ書ス可キモノトス 但訴訟入費ハ明治九年當省甲第五號布達右告示候事

第一條第九條ニ定メタル割合ニ依リ書類認料ハ一枚金貳拾錢翻譯料ハ一枚金四圓ト相成儀ト心得ヘシ

第八十三章 各裁判所ノ位置及管轄區畫表  
 ○明治十六年一月十日第二號布告

大 審 院				
東京控訴裁判所				
東京				
本廳支廳	始審	治安府縣國名		
區本所	區下谷	區麴町東京府	芝區	區京橋
武藏				
本所區	神田區 南足立	下谷區 北豐島	麴町區 小石川區 本鄉區 南豐島	四谷區 牛込區
深川區	南葛飾	淺草區	荏原區 東多摩	赤阪區
日本橋區	京橋區			

千〇六十六

同 同					
千葉			橫濱		
市八日			子八王		
市八日	津木更	千葉	子八王	原小田	橫濱
	縣千葉		川神奈		
上總	安總	上總	武藏	相摸	武藏
下總	上房	下總	相摸	相摸	相摸
海上	天羽	下植生	(南北西)多摩	足柄上	橫濱區
山邊	全國四郡	東葛飾	津久井	足柄下	久良岐
武取	周准	夷隅		大住	橘樹
匹毘	望陀	長柄		陶綾	都築
		市原			
		南相馬			

各裁判所ノ位置及管轄區畫表

千〇六十七

同					
同					
前橋			浦和		
			熊谷		
太田	高崎	前橋	太宮	熊谷	浦和
縣群馬			縣埼玉		
上野			武藏	武下總	
新田	山田	邑樂	秩父	榛澤	北埼玉
東群馬 (南北) 勢多 佐位 那波 利根 吾妻 西群馬ノ内 猪野川以東			北埼玉 比企 男衾 横見 大里	新庄 入間 高麗	中葛飾 北足立 南埼玉
確水 (南北) 甘樂 片岡 綠野			旗羅 兒玉 賀美 那賀		
多胡 西群馬ノ内 猪野川以西					

大 審 院					
同					
水戸			水戸		
宮宇都			土浦		
宮宇都			水戸		
縣枋木			縣茨城		
下野			下總	常陸	常陸
河内	芳賀	鹽谷	那須	真壁	鹿嶋ノ内
(上下) 足賀 寒川 安蘇 築田			猿島 結城 岡田 豐田	新治 筑波 河内 信太 行方	(東西) 茨城 那珂 久慈 多賀
都利					
西葛飾					

大 審 院				
同				
甲 府		靜 岡		
		遠 江		
谷 村	甲 府	掛 川	濱 松	沼 津
山 梨 縣		靜 岡 縣		
甲 斐		遠 江		駿 河
(南北)都留		山 名	鹿 玉	伊 豆
		周 智	豐 田	那 加
		城 東	磐 田	加 茂ノ内
		佐 野	長 上	駿 東
		榛 原	敷 知	富 士
			引 佐	由 方
				加 茂ノ内
				安 部
				志 田
				益 津

千〇七十一〇

同								
同								
				長 野				
上 田		松 本						
村 岩 田	上 田	福 嶋	大 町	上 諏 訪	飯 田	松 本	飯 山	長 野
(南北) 佐久		小 縣		西 筑 摩ノ内		東 筑 摩ノ内		上 伊 奈ノ内
		埴 科ノ内				(南北) 安 曇ノ内		上 伊 奈ノ内
		更 級ノ内						下 伊 奈
								上 水 内ノ内
								上 高 井
								更 級ノ内
								下 水 内
								(東西)筑 摩ノ内
								(南北)安 曇ノ内
								上 伊 奈ノ内
								下 伊 奈

各裁判所ノ位及管轄置區畫表

千〇七十一

同					控 始 審
大 阪 控 訴 裁 判 所					
京都					治 安 府 縣
宮津				京都	
宮津	山	福知	園部	伏見	國 名
丹後	丹波	丹波	山城		
熊野	竹野	中與謝	加佐ノ内	宇治ノ内	郡 區 名
天田	何鹿	船井	(南北)桑田	(上下)京區 愛宕 葛野	
乙訓	紀伊	久世	相樂	綴喜	

大 審 院									
同 新瀉									
相川	高田			新瀉	田	新瀉	新瀉	新瀉	新瀉
相川	川	系魚	高田	町六日	柏崎	長岡	村上	田	新瀉
新瀉縣									
越後									
佐渡	新瀉區 (西中南)蒲原								
全國三郡	西頸城	(東中)頸城	(南中)魚沼	刈羽ノ内	吉志ノ内	北魚沼	三嶋	刈羽	岩船
									北蒲原

各裁判所ノ位置及管轄區畫表

同																				
同																				
岡山					神戸															
津山					豊岡	姫路	洲本													
津山	高染	玉島	岡山	岡山	豊岡	姫路	洲本	明石	神戸											
岡山縣					兵庫縣															
美作	備中		備前	備前	但馬	播磨	淡路	丹波	攝津											
全國十二郡	加場ノ内	上房	浅口	小田	宇都	岡山區	全盛八郡	加東	多可	多可	多可	多可	多可	多可	多可	多可	多可	多可	多可	多可

千〇七十五

大審院										
大阪										
奈良					大阪府					
五條	奈良	堺	天王寺	中ノ島						
大和					河内		和泉		攝津	
高市ノ内	宇智	高市ノ内	式下	高市ノ内	高市ノ内	高市ノ内	高市ノ内	高市ノ内	高市ノ内	高市ノ内

千〇七十四

各裁判所ノ位置及管轄區畫表

同										
同										
德島	和歌山			金澤						
脇町			七尾	富山						
脇町	德島	田邊	和歌山	輪島	七尾	高岡	魚津	富山	小松	金澤
縣德島		和歌山縣		縣石川						
阿波		紀伊		能登		越中		加賀		
美馬	海部	名東	日高	和歌山區	珠洲	鹿島	射水	下新川	上新川	能美
三好	板野	名西	(東西)	海部	鳳至	羽咋			婦負	江沼
麻植		勝浦	牟婁	伊都						
阿波		那賀		那賀						

千〇七十七

大 審 院						
同						
福井				大津		
小濱				彦根		
敦賀	小濱	大野	福井	彦根	大津	
縣福井				滋賀		
若狹	越前	若狹	越前	近江		
三方	敦賀	遠敷	大野	阪井	南條	伊香
		大飯		足羽	今立	(東西)淺井
					丹生	神崎
					吉田	愛知
						犬上
						阪田
						蒲生
						高島
						滋賀
						野州
						甲賀
						栗田

千〇七十六





大 審 院

同 岐 阜

高山	御嵩	大垣	岐阜
飛彈	美濃	不破	海西
全國三郡	加茂	池田	方縣
	可兒	大野	厚見
	土岐	本巢	羽栗
	惠那	席田	各務
		安八	中島
		石津	武儀
		多藝	郡上

同

廣 島 控 訴 裁 判 所

山口		廣島	
尾道		廣島	
萩	赤間	山口	廣島
山口縣		廣島縣	
長門	周防	備後	安藝
大津	熊毛	神石	廣島區
阿武	大島	御調	山縣
見島	玖珂	品治	沼田
	豐島	甲奴	高宮
		沼田	加茂
		世羅	佐
		深津	
		安那	

各裁判所ノ位置及管轄區畫表

千〇八十一

千〇八十一〇

大 審 院					
烏取		松江			
米子	米子	西郷	濱田	今市	松江
鳥取		島根			
伯耆	因幡	隱岐	石見	出雲	出雲
汗入	河村	全國四郡	鹿足	神門	大原
會見	久米		邑智	出雲	島根
八橋			邇摩	楯縦	意宇
日野			美濃	飯石	能義
					秋鹿

千〇八十二

長 崎 控 訴 裁 判 所					
福岡			長崎		
小倉	久留米	福岡	佐賀	平戸	長崎
小倉	久留米	福岡	佐賀	平戸	長崎
福岡縣			長崎縣		
筑前	筑後	筑前	肥前	肥前	肥前
筑前	企救	福岡區	基肆	北松浦	長崎區
上毛	田川	席田	養父	西彼杵ノ内	北高來
遠賀	京都	粕屋	三根	神崎	東彼杵
中津	鞍手	上座	藤津	佐賀	
		下座			
		那珂			
		高須			

各裁判所ノ位置及管轄區畫表

千〇八十三

大 審 院

同					
大分					
中津					
豆田	中津	杵築	竹田	佐賀	大分
縣大分					
豐後	豐前	豐後			
玖珠 日田	下毛 宇佐	(東西)國東 速見ノ内	直入大野ノ内	南海部 北海部ノ内 大野ノ内	大分 北海部ノ内 大野ノ内 速見ノ内

千〇八十四

同

鹿兒島				熊本			
宮崎				天草			
延岡	都城	宮崎	大島	水引	鹿兒島	天草	熊本
鹿兒島縣				熊本			
日向		大隅	薩摩	大隅	薩摩	肥後	
白杵	諸縣ノ内	宮崎 那珂ノ内	大隅 那珂ノ内	薩摩 出水 高城 日置ノ内	薩摩 始羅 桑原 馭謨	鹿兒島 谷山 阿多 肝屬	熊本區 飽田 託摩 宇土 合志 (上下)益城 阿蘇
	那珂ノ内	諸縣ノ内	伊佐	高城 伊佐 甌嶋 菱刈	馭謨	穎娃 楫宿 川邊	山鹿 山本 菊池 玉名
	那珂ノ内				天草	土麻	八代 芦北

各裁判所ノ位置及管轄區畫表

千〇八十五

同 同										
秋田			盛岡				山形			
能代	大曲	本庄	磐井	磐井	宮古	盛岡	酒田	米澤	新庄	山形
秋田縣			岩手縣				山形縣			
陸中	羽後	羽後	陸前	陸中	陸中	陸奥	羽前	羽前	羽前	最上
北秋田	仙北	由利	川邊	氣仙	(東西)磐井	二戸	甲賀	岩手	(南北)九戸	飽海
鹿角	平鹿	雄勝	南秋田	膽澤	(東南中北)閉伊	西閉伊	稗貫	紫波	伊具	(東西)
		山本		江刺						

院 審 大 所 判 裁 訴 控 城 宮										
福島						仙臺				
若松	平	白河	中村	福島	原	大河	石卷	古川	仙臺	治安府縣國名
福島縣						宮城縣				
越後	岩代	盤城	岩代	盤城	盤城	岩代	陸前	陸前	陸前	區 郡 名
東蒲原	安積ノ内	田村ノ内	岩瀬	(東西)白河	宇多ノ行方	信夫	柴田	桃生	志田	仙臺區
	耶麻	河沼	安積ノ内	安積ノ内	伊達	伊具	伊具	杜鹿	加美	宮城
	大沼	標葉	耶麻	安積ノ内	伊達	伊具	伊具	登米	玉造	名取
								本吉	栗原	黒川
									遠田	

大審院										控 始 審
弘前控訴裁判所										
函館					弘前					
八戸					八戸					治安府縣國名
壽都	福山	江刺	函館	八戸	河原	五所	青森	弘前		
函館縣					青森縣					區 郡 名
後志	渡嶋	後志	渡島	膽振	陸奥					
島牧	松前	久遠	檜山	山越	三戸	北津輕	東津	(西中南)津輕		
壽都		太樽	爾志	龜田	上北ノ内		下北	上北ノ内		
歌棄		瀬棚	上磯	茅部						
磯谷		奥尻								

大審院									
同									
根室					札幌				
厚岸	根室	岩内	小樽	増毛	浦川	札幌	札幌	札幌	札幌
根室縣		札幌縣							
釧路	北見	千島	根室	後志	天鹽	日高	十勝	石狩	膽振
全國七郡	斜里	網走	常呂	紋別	宗谷	枝幸	利尻	禮文	高島
	古宇	岩内	小樽	余市	忍路	古平	小樽	古宇	岩内
	古宇	岩内	小樽	余市	忍路	古平	小樽	古宇	岩内
	古宇	岩内	小樽	余市	忍路	古平	小樽	古宇	岩内
	古宇	岩内	小樽	余市	忍路	古平	小樽	古宇	岩内
	古宇	岩内	小樽	余市	忍路	古平	小樽	古宇	岩内

各裁判所ノ位置及管轄區畫表  
千〇八十九

第八十四章

証券印紙貼用心得方便覽表

青色 十錢	薄赭色 五錢	淡黑色 一錢	雜穀 高	米 高	金 高
			石 十	石 五	圓 十
		枚一	石 十二	石 十	圓 十二
		枚二	石 十三	石 十五	圓 十三
		枚三	石 十四	石 二十	圓 十四
		枚四	石 十五	石 二十五	圓 十五
	枚一		石 十六	石 三十	圓 十六
	枚一	枚一	石 十七	石 三十五	圓 十七
	枚一	枚二	石 十八	石 四十	圓 十八
	枚一	枚三	石 十九	石 四十五	圓 十九
	枚一	枚四	石 二十	石 五十	圓 二十
枚一			石 一百	石 一百	圓 一百
枚一		枚一	石 一百	石 一百五十	圓 一百
枚一		枚二	石 一百二十	石 一百六十	圓 一百二十
枚一		枚三	石 一百三十	石 一百六十	圓 一百三十
枚一	枚一		石 一百四十	石 一百七十	圓 一百四十

青色 拾錢	薄赭色 五錢	淡黑色 壹錢	雜穀 高	米 高	金 高
枚一	枚一		石 拾五	石 拾七	圓 拾五
枚一	枚一	枚一	石 拾六	石 拾八	圓 拾六
枚一	枚一	枚二	石 拾七	石 拾八	圓 拾七
枚一	枚一	枚三	石 拾八	石 拾九	圓 拾八
枚一	枚一	枚四	石 拾九	石 拾九	圓 拾九
枚一			石 百 貳	石 百	圓 百 貳
	枚一		石 百 三	石 拾五	圓 百 三
枚一	枚一		石 百 四	石 百 貳	圓 百 四
			石 百 五	石 十五 百 二	圓 百 五
枚一			石 百 六	石 百 三	圓 百 六
枚一			石 百 七	石 十五 百 三	圓 百 七
	枚一		石 百 八	石 百 四	圓 百 八
枚一	枚一		石 百 九	石 十五 百 四	圓 百 九

証券印紙貼用心得方便覽表

深紅色	一枚	石千	石百五	圓千	橙黃色五拾錢	一枚
深紫色	一枚	石千貳	石千	圓千貳		一枚
紅色	一枚	石千三	石百五千	圓千三		一枚
	一枚	石千四	石千二	圓千四		一枚
	一枚	石千五	石百五千二	圓千五		一枚
	一枚	石千六	石千三	圓千六		一枚
	一枚	石千七	石百五千三	圓千七		一枚
	一枚	石千八	石千四	圓千八		一枚
	一枚	石千九	石百五千四	圓千九		一枚
	一枚	石万壹	石千五	圓萬壹		一枚
	一枚	石万貳	石萬壹	圓萬貳		一枚

千〇九十三

○大判界紙 定價 七厘  
 ○中判界紙 同 五厘  
 ○小判界紙 同 三厘  
 右三種ハ何レニテモ便宜ニ任セ之ヲ用ニ

夫レ界紙ハ三種ニ分ツト雖モ其文様ノ長短ニ依テ何レヲ用フルモ適宜ニ任セラレタリ若シ界紙ヲ用フヘキ証書ニ界紙ヲ用ヒサルルハ此ノ三種ノ代價ヲ平均シテ五厘二十倍即チ拾錢ノ過料ヲ徴セラレ、ナリ

印紙界紙ヲ  
 貼用スルニ  
 ○官祿○家祿○賞典○救助ノ受取証○裁判召喚狀  
 受取書○訴訟濟口証文○(拾圓未滿)賣品并職業ニ  
 係ル金錢受取書○(拾圓未滿)質物預リ書小札  
 ○租稅○賦金○營業稅○戶數割稅等區郡役所戶長

証券印紙貼用心得方便覽表

千〇九十三

<p>及ハサル証書類</p>	<p>役場等ヨリ渡ス受取書○官省院府縣裁判所ノ官印アルカ又ハ諸官人ノ公務ニ依リ調印セル証書類○衆庶一般ノ災厄救助等ニテ官ノ金穀諸拜借証文○送り狀附添ハサル荷物受取書○諸酒切手（升目一升マテ）飲食物切手并ニ米油醬油其外何品ニ限ラズ賣買切手代金貳拾五錢未滿ノモノ</p>
<p>界紙ノミチ用フル分</p>	<p>○預リ金証文手形 <small>判足ナシ即チ使 用チ爲サ、ル分</small> ○耕地小作証文 ○遺金証文○以上 <small>第一類金高拾圓 ニ滿タサル分</small> ○第二類諸証書ノ金高拾圓以上米高五石迄雜石高拾石未滿ノ分 ○第三類中送狀附添フ荷物受取書金高記載無之約定証書雇人請狀</p>

<p>金高ニ係ハ ラス總テ壹 錢印紙ヲ用 フル分</p>	<p>○諸社會株券及手形○荷物送り証書○荷物預リ証書○物品讓與証書○地所建家讓與証書○諸公債証書ノ讓館証書○跡式讓狀</p>
<p>第 二 類 諸 証 書</p>	<p>○借用金証文○預リ証文金手形 <small>利足ヲ加ユル分 即使用スルナリ</small> ○地所建家賣渡証文○同質入書入証文○公債証書類賣買証書○諸品 <small>質入 書入</small> 証書○爲替手形并置手形○荷物爲換手形○諸請負証文○金錢約定証文○金錢約定爲取換証文○米穀并諸品賣買約定証文○米穀借用証文○賣買用諸品 <small>代金拾 圓以上</small> ○借地証文○借家証文○金高拾圓以上記載雇人請狀○諸賣買証據金預リ手形○諸敷金証文○預リ米穀証文手形但使用スル分</p>

證券印紙貼用心得方便覽表



之 分	第 一 類 諸 帳 簿	第 二 類 諸 帳 簿
<p>此等ノ証書ハ總テ金高拾圓以上米高五石以上雜穀高拾石以上ノ高ナレハ總テ一錢印紙ヲ貼用ス其他ノ金高ハ心得方便覽表ヲ見合スヘシ</p> <p>金錢判取帳○質物通帳○金錢當座預リ通帳</p> <p>此等ノ帳簿ハ其附込金高百圓以上貳百圓迄一錢印紙貳百圓以上三百圓迄貳錢印紙三百圓以上四百圓迄四錢印紙</p> <p>此ノ外附込金高幾許ノ數ニ至ルトモ此割合ニテ印紙ヲ增加貼用スヘシ</p> <p>金錢一時借通帳<small>兩替通帳ノ類</small>○質物臺帳<small>質屋ノ本帳ノ類</small>○商賣品當座借通帳<small>則せり帳</small>○諸品損料帳○金錢預リ通帳<small>利足帳ヲ付ケテ使用スル分</small></p>	<p>此等ノ諸帳簿其附込見積リ金高百圓以上貳百圓迄五錢印紙○貳百圓以上三百圓迄拾錢印紙○三百圓以上四百圓迄拾五錢印紙ヲ增加貼用ス</p> <p>此ノ外幾許ノ高ニ至ルモ此割合ヲ以テ印紙ヲ增加貼用スヘシ</p> <p>但第一類附込見積リ金高ノ滿ル迄其帳簿幾年用フルモ苦シカラス</p>	<p>此等ノ諸帳簿其附込見積リ金高百圓以上貳百圓迄五錢印紙○貳百圓以上三百圓迄拾錢印紙○三百圓以上四百圓迄拾五錢印紙ヲ增加貼用ス</p> <p>此ノ外幾許ノ高ニ至ルモ此割合ヲ以テ印紙ヲ增加貼用スヘシ</p> <p>但第一類附込見積リ金高ノ滿ル迄其帳簿幾年用フルモ苦シカラス</p>

第 三 類 諸 帳 簿	第 一 類 諸 帳 簿
<p>○荷物判取帳○諸物品判取帳<small>附込ノ紙數箇ニ拘ハラス一ケ年印稅貳拾錢</small></p> <p>此外幾年用フルモ其年限ハ適宜ナリ則一ケ年貳拾錢ノ割ヲ以テ印紙ヲ增加スヘシ</p>	<p>○荷物判取帳○諸物品判取帳<small>附込ノ紙數箇ニ拘ハラス一ケ年印稅貳拾錢</small></p> <p>此外幾年用フルモ其年限ハ適宜ナリ則一ケ年貳拾錢ノ割ヲ以テ印紙ヲ增加スヘシ</p>

證券印紙貼用并裁判管轄出訴心得方便覽表 千〇九十七

第八十五章 裁判管轄出訴心得便覽表

請求ノ金高及ヒ諸物件ニ關スル訴訟ニシテ金高ニ見積リ	百圓 未滿	管轄	治安裁判所
右ノ訴訟ニ付キ其裁判言渡ニ服セシテ控訴セントスル者		管轄	始審裁判所
請求ノ金高及ヒ諸物件ニ關スル訴訟ニシテ金高ニ見積リ	百圓 以上	管轄	始審裁判所
人事及ヒ金高ニ見積ル可カラサル訴訟		管轄	始審裁判所
右ノ訴訟ニ付キ其裁判言渡ニ服セシテ控訴セントスル者		管轄	控訴裁判所

第八拾六章 出訴期限心得便覽表

出訴期限	學藝ノ授業料	六ケ月
	運送賃	
出訴期限	手附金	六ケ月
	職人ノ手間代金	
	請負金	
	男女藝者ノ揚代金	
	旅籠料	
	飲食料	
	商人互ノ賣掛金	
	日雇人ノ給料	
	芝居等ノ木戸錢又ハ棧敷錢等	

出訴期限心得便覽表

同	一ケ年	同	五ケ年	條約証書中 無期限ノモノ	証書 封印ノ儘預リ 預リ中融通使 用ヲナサス	勸解出願中出訴 期限ノ満ルモノ	裁判執行	控訴上告	距離猶豫
醫師ノ脈診及ヒ藥料 授業師ヨリ門弟ニ給與シタル飲食料 商人ヨリ商人ニ非ラサル者ヘノ賣掛代金 一ケ年マテノ奉公人給料 期限ヲ定メタル貸付米及ヒ利息アレハ其 利息 期限ヲ定メタル預金及ヒ利息アレハ其利 息 家屋及ヒ土地ノ借賃 證據金 物品ノ借賃又ハ損料 七ケ年マテノ奉公人給料 期限ナキ年金及ヒ一生涯ノ年金 小作金米 敷金 養育料									
該出訴セントスル日ヲ以テ期限トス									
文明預ケ 金穀 二十箇年以内									
不調ノ翌日ヨリ滿三十日									
五箇年									
裁判言渡ヨリ二ケ月(六十日間) 控訴裁判言渡ヨリ二ケ月(六十日間)									
控訴ニアツテハ地方裁判所ヨリ控訴裁判 所上告ニアツテハ原裁判所ヨリ大審院ニ 至ルノ距離八里ヨリ遠キ時ハ各定期ノ外 毎八里ニ一日ノ猶豫ヲ増ス									

出訴期限心得便覽表

明治十七年  
二月廿三日  
太政官第五  
號布告

民事訴訟  
用方心得  
便覽表

類印紙種	定價	紙壹枚	價	貼用印紙額	訴金額
赭色	拾錢	貳枚	三枚	壹枚	貳枚
				步割	全價額
				ノ百分	五圓迄
				ノ四分	拾圓迄
				ノ百分	貳圓拾迄
				ノ三分	五圓拾迄
				ノ百分	七圓拾五迄
				ノ三分	百圓迄
				ノ百分	
				ノ三分	
				貳枚	

茶褐色	黃色	青色	橙黃色	綠色	嬌稟色	貼用紙數
五拾錢	壹圓	五圓	拾圓	拾五圓	貳拾圓	貳枚
						三枚
						貳枚
壹枚						貳枚
壹枚	一枚					四枚
	貳枚					三枚
	夫三枚					

出訴期限心得便覽表

千百〇三

千百〇二

類印紙種	定價	印紙壹枚價	步割	貼用印紙額	全訴金額
黃色	壹圓	壹枚	百分ノ六	六拾圓	貳百五拾圓迄
茶褐色	五拾錢	壹枚	百分ノ二	拾圓	五百迄
赭色	拾錢		百分ノ二	拾三圓	七百五拾圓迄
黃色	壹圓	壹枚	百分ノ一	拾五圓	千圓迄
			百分ノ二	貳拾圓	貳千五百圓迄
			百分ノ一	廿五圓	五千圓迄

青色	五枚	壹枚							
橙黃色	拾圓		壹枚						
綠色	拾五圓					壹枚			
嬌稟色	貳拾圓						壹枚		壹枚
		貼用枚數	三枚	壹枚	四枚	壹枚	壹枚	貳枚	
五千圓	五千圓ノ	定額	廿五圓	其	上	千圓迄			
以上	每	二圓宛	ヲ	加	フ				

民事訴訟用印紙用方心得便覽表

人事ニ 係リ極 貧者ノ 心得	極メテ貧窮者ニシテ出訴セントスルモ其印紙代價ノ 調ヒ難キモノ戸長ニ請フテ証書ヲ所持スル片ハ裁判 官ニ於テ其貼用ヲ免セラル、トアルヘシ	事 黃色印紙 三枚	人 三 圓
控訴ニ 於テハ	定額ノ外猶其上へ 其半額ヲ加貼ス	積見金額 積ル可カ ラサ ル者	三 圓
上告ニ 於テハ	定額ノ上ニ猶其 一倍ヲ加貼ス	黃色印紙 三枚	三 圓

啓 辨 書	証 據 物 寫	辨 駁 書	辨 論 書	上 申 書	陳 述 書	証 人 呼 出 願 書	鑑定 人 呼 出 願 書	評 定 人 呼 出 願 書	引 合 人 呼 出 願 書	審 判 延 期 願 書	勸 解 表
貳拾錢											
赭 色 紙	印 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙
官 吏 臨 檢 願 書	財 產 差 押 願 書	物 品 公 賣 願 書	執 行 命 令 書	下 附 願 書	身 代 限 處 分 書	請 求 願 書	請 求 願 書	請 求 願 書	請 求 願 書	請 求 願 書	請 求 願 書
五拾錢											
茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙	茶 色 紙

民事訴訟用印紙用方心得便覽表

裁判	十二行	五錢	此割合ヲ以印紙ヲ其受書ニ貼ス	黑色印紙	定價
言渡書	十二字	五錢	此割合ヲ以印紙ヲ受書ニ貼ス	淡黑色印紙	定價
騰本	詰壹枚	三錢	凡テ此印紙ハ訴訟ニアツテハ受附ノ時勸解ニアツテハ表ニ署名ノ時訴狀其他何レモ書類ノ正本ニ貼用シ貼用者則チ捧呈人ノ實印ヲ以消印スヘシ		
其他ノ	二十行	三錢			
騰本	詰壹枚	三錢			

現大日本法律全書終行

明治十七年二月十八日出板御届  
同 年三月廿五日期成出板

定價金壹圓三十錢

編纂人

大阪府平民 柳澤武運三

出板人

同 田中太右衛門

發兌

同 柳原喜兵衛  
東區北久太郎町四丁目  
十四番地

書肆

同 大村安兵衛  
同 淡路町二丁目十八番地

2/20/2

大阪

大阪府平民

松村九兵衛

南區心齋橋壹丁目

同

吉岡平助

東區備後町三丁目

同

北尾禹三郎

同 安土町三丁目

同

中野啓三

東區松屋町本町北入

同

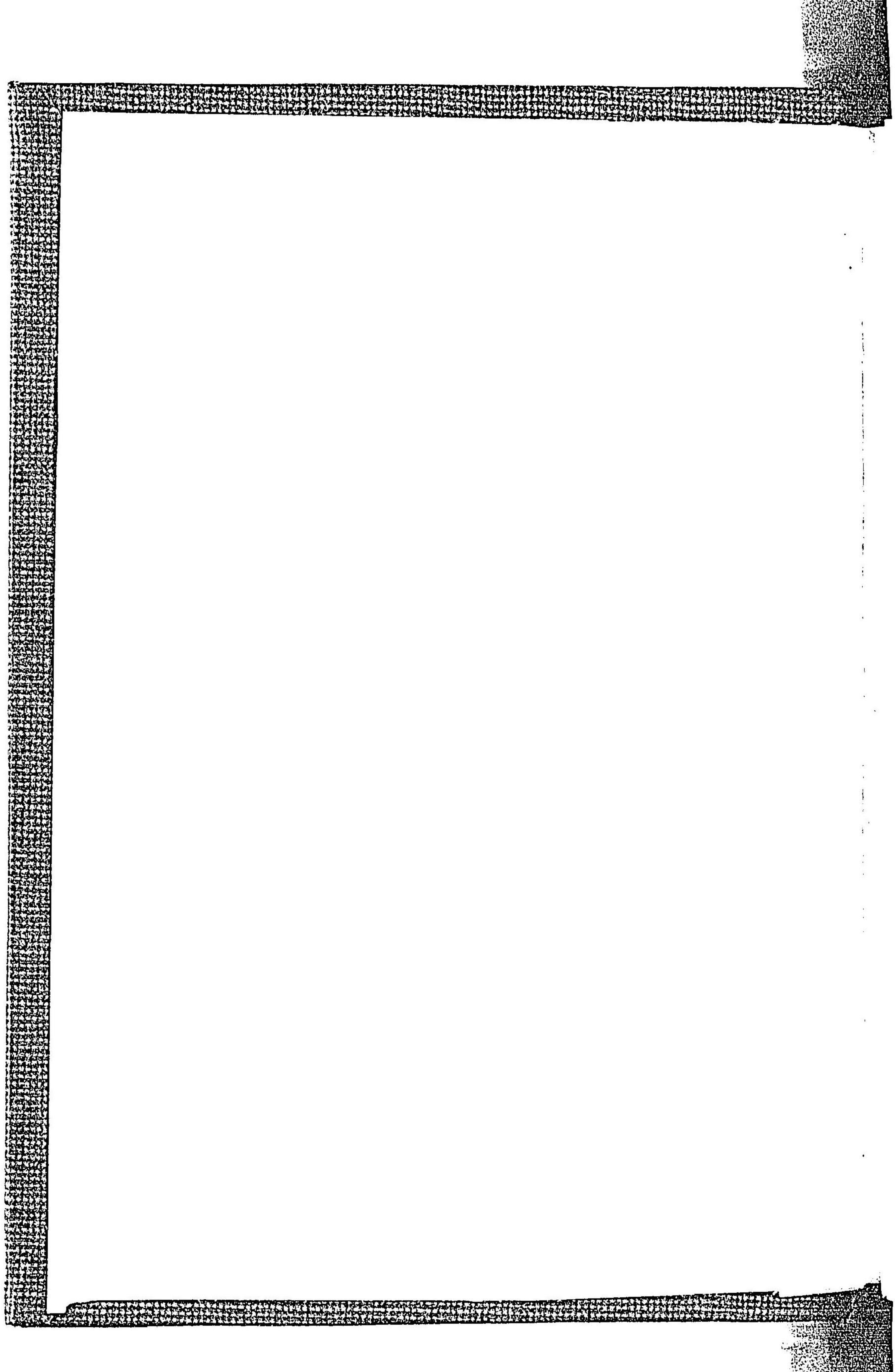
亀屋七吉

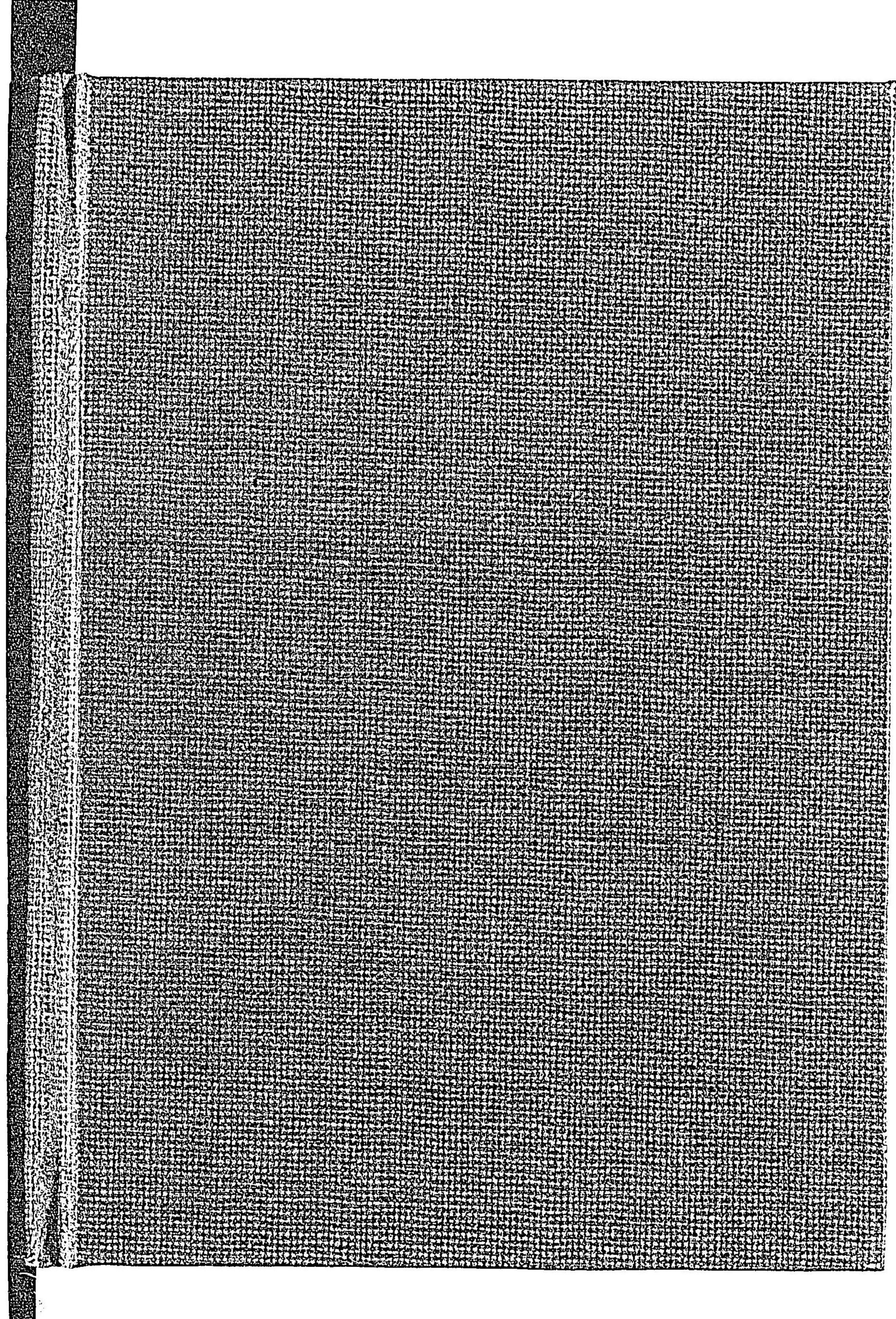
書肆

同









禁電子式複写

030922-000-2

CZ-5-0167

現行大日本法律全書

柳沢 武運三/編

M17

BBC-0245

